
リリカルなのは StrikerS ~ Sweet Songs Forever ~ prologue?

海人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは Strikers Sweet Songs Forever prologue?

【Nコード】

N2960K

【作者名】

海人

【あらすじ】

魔法少女リリカルなのは Strikers Sweet Songs Foreverの過去話の1つになります。失った記憶を取り戻す旅をしている俺は1つ目の世界である『怪盗の世界』で果たすべき役目をはたし2つ目の世界である『魔導師の世界』に足を踏み入れる。そこで俺は1人の少女と出会い1つの事件に関わる事になった・・・感想、評価、よろしければ是非お願いします。

prologue

光のない暗闇の空間に俺はいた。

飛翔

「此处はどこだ？」

来る所を間違えたか？

???

「よく来ましたね。」

声と一緒に頭上に光の玉が現れた。

飛翔

「誰だ？」

???

「あなたの旅の成功を願う者とても……」

俺の旅の成功を願う者？

飛翔

「何故、現れた？」

???

「警告に……」

飛翔

「警告？」

物騒な言葉だな。

???

「この世界はアナタの『無くした記憶』に関わる世界です。」

飛翔

「!!!」

なんだと!?

???

「ですから『魔導師の世界』もアナタに介入するでしょう。気をつけなさい。」

そして俺の意識が途絶えた。

???

「頼みます。あの子を救ってください。」

prologue (後書き)

??

始めまして、不破鈴音と言います。早速なんですがこのはなんですか？

??

過去話みたいだね。

鈴音

なんで？

??

今の話の続きが書けないから気分展開だ、との事だよ。

鈴音

そうですか・・・所であなは？

??

それは、次の話だね。

1話・遭遇（前書き）

今回の世界は「とらいあんぐるハート3」と「魔法少女リリカルなのは」が混ざった世界ですが基盤となるのは「とらいあんぐるハート3」の世界観です。よって若干違いがあります。

「魔法少女リリカルなのは」はキャラ追加のみです。

1話：遭遇

SIDE：飛翔

ここは・・・目を開けたら神社が見えた。どうやら新しい世界に
いたみたいだ。持ち物を確かめて歩き出す事にした。まず、気にな
る事は・・・

飛翔

「ここはどこだ？」

いや神社なのは分かるけれど・・・とりあえず今回はまともな場所
でよかった。前は山奥だったからな・・・前の世界の事を思い出し
ながらこれから何をしようか？

飛翔

「とりあえず街に出てみよう。」

ここがどんな世界か調べないといけないしな。神社の石段を下りて
から離れ街に向かっていると……

???

「な、なにするんですかっ！」

???

「うるさい！いいから来るんだ！」

???

「はなして……」

抵抗空しく、少女は車に乗せられ連れ去られた。

この間、僅か1分。

あいつら手際がいいな……じゃない。

何、感心してるんだ俺？

飛翔

「誘拐だよな？追いつけるか、ダークウイング、ブランウイング？」

ミラーワールドにいる自分の契約モンスター、ダークウイングとブランウイング、飛行能力と移動力のある二体に呼び掛ける。

ダークウイング・ブランウイング

「追いつけます！！」

飛翔

「頼むぞ！！」

そして俺はマシンディケイダーを召喚して車の後を追った。

S I D E : O U T

S I D E : : ? ? ?

突然、男達に浚われた私は縄で縛られとある部屋に押し込められた。

???

「私を誘拐して如何しようって言うんですか!?!」

目の前に居る男達に叫ぶ。

???

「そんなの決まってるだろ？身代金目的さ。月村家のご令嬢殿。」

???

「なら邪魔をさせてもらうぞ。」

唐突にそんな声が聞こえた。

チンピラ達

「「「「「！？」」「」「」

その言葉に現われたのは少し年上の男の子。
現われた男の子に拳銃を向けて問い掛ける。

チンピラA

「貴様、何者だ？」

その言葉に笑みを浮かべながらこう答えた。

???

「通りすがりの仮面ライダーだ、覚えておけ！！」

その直後、男の子は懐から何かを取り出すと腹に当て、それはベルトとなって装着された。

と、いつの間にか男の子の手には1枚のカードが握られており、バツクルとなったそれに差し込んだ。

??

「変身!」

【KAMEN RIDER! : DECADE!】

何処からか電子音が聞こえた。

SIDE : OUT

SIDE : 飛翔

【KAMEN RIDER! : DECADE!】

デイケイドライバ - からの音声が響くと自分の周囲に9つの灰色の影が浮かび、それらは自分と重なる。すると自分の全身が灰色と黒の装甲に覆われ、目の前に7枚の赤い光の板が現れ刺さる。緑の大きな複眼と灰色の部分がベージュ色に輝き変身が完了する。

自分の姿を、世界を巡る仮面ライダー、『デイケイド』に変わった。その姿に目の前の男達は驚いていた。

チンピラA

「な、なんだアイツは!」

そう言いながら拳銃の引き金を引くが・・・

チンピラB

「銃がきかねえ。」

ある意味、当然だな。銃弾で倒せるなら俺は何度も死んでいる事になるからな・・・

チンピラC

「先生、お願いします。」

助っ人の登場か？そんな事を考えていた俺の前に現われたのは御伽話に語られているような鬼とそれを操っていると思われる男だった。

???

「な、なに、あれ？」

女の子がおびえたように聞いて来た。

飛翔

「式神みたいな奴か……」

『響鬼の世界』で似たようなのを見た事があるからな。

チンピラA

「化け物さらうんだ、それなりの準備はしているのさ。」

???

「……………」

化け物？あの女の子が？

飛翔

「化け物って……こんなかわいい女の子になんて言葉を言いやがる。」

大介さんや音也さんが聞いたら間違いなくキレるな。

術者

「さあ、行け！！」

ディケイド

「なめるなっ！！」

【ATTACK！RIDE！…BLAST！！】

ライドブッカードをガンモードにしてディケイドブラストを鬼に放つ。

鬼

「ぎゃああああああ。」

効果はあるみたいだな。

術者・チンピラA、B、C

「……なにいいい。」「……」

誘拐犯全員がこの光景に驚愕している。

飛翔

「なんだ、この程度か？」

今までグロンギやワームなど数多の怪人と戦ってきたんだ。この程度なら問題無し。対処のしかたも幾つかは思いつく。

デイケイド

「鬼には……桃太郎だよな。・・・変身!!」

そう言つて1枚のカードを取り出してバツクルにセットする。

【KAMENIRIDE!! DENIO!!】

装填したその瞬間、デイケイドの身体に赤いアーマーが纏われ、最後に頭に現われた桃形の赤い仮面が割れてバイザーとなった。

???

「姿が変わつた!?!それにあの姿は……」

電王に見覚えがあるのか?けど今は……

更に1枚のカードを取り出してバツクルにセットする。

【ATTACKIRIDE!! OREISANJOU!!】

D電王

「俺、参上!!…いくぜいくぜいくぜえ!!」

ライトブッカーをソードモードに変形させ召喚された鬼に斬りかかる。

D 電王

「たいした事ねえな……これで終わりだ!!」

ライトブッカーから1枚のカードを取り出しバツクルにセットする。

【FINAL - ATTACK RIDE!!…DE・DE・DE・
DENIO!!】

D 電王

「喰らえ、俺の必殺技パート2!!」

自分の攻撃で八の字に斬り裂かれた鬼は爆散し消滅した。

それを見たチンピラ達は逃げだした。

SIDE：OUT

SIDE：???

???

「大丈夫か？」

男の子が元の姿に戻り私に近づいて来て縄を解いてくれた。

???

「どうして、助けてくれたの？」

???

「助けるのに理由があるのか？それに……」

???

「それに？」

???

「あるジジイが言っていた。女性の悲鳴が聞こえたら動く。それが正義の味方だつてな。」

見逃せなかったしな。って聞こえた気がした。

???

「ところで……1つ聞きたい事がある。」

???

「？」

???

「此処、何処？」

SIDE:OUT

1話・遭遇（後書き）

鈴音

1話目はどうだったでしょうか？

??

これが私、月村すずかと飛翔君の出会いだよ。

鈴音

1つ気になる事があります。すずかさんが化け物って呼ばれていましたかどうしてですか？

すずか

それはまた次の機会に話す事にするよ。

鈴音

では、次回でまた会いましょう。

2話・出会つ者達（前書き）

「貴様、何者だ？」

「通りすがりの仮面ライダーだ、覚えておけ!!」

「鬼には……桃太郎だよな。・・・変身!!」

《KAMEN RIDER!! … DENZO!!》

「俺、参上!!」

「どうして、助けてくれたの？」

「あるジジイが言っていた。女性の悲鳴が聞こえたら動く。それが正義の味方だつてな。」

2話・出会う者達

SIDE：飛翔

デイケイダーを運転し先程助けた女の子の家に向かっていた。バイクの免許持っていないだろうと突っ込まないでくれるとうれしい。そんな事を考えていると・・・ふと思いついた。

飛翔

「そういえば……」

女の子の名前を聞いてなかったな。

???

「どうしたんですか？」

俺の言葉に不思議そうな顔で聞き返してきた。

飛翔

「いや、名前を聞いてなかったなって……」

???

「そういえばそうですね。」

女の子もその事に気付いたみたいだ。

???

「私は月村すずかです。先程は助けてくれてありがとうございます。」

「

飛翔

「俺は飛翔って言うんだ。ちなみに名字はないよ。今のところは…」

名字どんなのにしようかな？と現在考えている最中だしな。

飛翔

「それで家は此処でいいのか？」

目の前のデッキカイ門を見ながらすずかに聞く。

すずか

「はい。」

飛翔

「デカいな。」

そんな事を考えていると……

???

「すずかちゃん。」

後ろから1人の男性が現れた。よほど急いで来たのか息が乱れていた。

すずか

「恭也さん。」

飛翔

「知り合いなのか？」

さっきの事があったから警戒したが知り合いだった事を知って安心した。

恭也

「良かった、無事だったのか。」

無事だった？その言葉に嫌な予感がした。

飛翔

「無事ってそつちでも何かあったんですか？」

恭也

「君は？それにそつちでもだと……」

すずか

「この人は私を助けてくれたんです。」

飛翔

「偶然通りかかって……それより何があったんですか？」

さつきから嫌な予感がする。

恭也

「俺は呼ばれただけなんだが……大事みたいだな。」

間違いないとおもいますよ。

すずか

「とりあえず中に入りませんか？」

恭也・飛翔

「分かった。」

すずかの案内で屋敷に向かった。

??

「すずかお嬢様!!」

中に入るとメイド現われた。見知らぬ顔の自分を見た時、表情を曇らせていたのを見てやっぱり何かあったと確信した。その後、すずかの話を聞いて警戒心を解いてくれたメイド（ノエルさんとファリンさんと言つ名前らしい）に案内された部屋に入った。その時、自分の持つライダーシステム全てをすずかに預けて（万が一の為にメタルガラスの契約カードを隠し持って）部屋に入った。部屋には恭也さんの他に2人の女性がいた。すずかの姉の月村忍さんと月村家に仕えるメイドでファリンさんの姉でノエルさんと言つらしい。

今までの経緯を話すとお礼を言われたが・・・

忍

「あなたは何者なの？」

このいきなりの質問に対して・・・

飛翔

「……………」

なんて答えよう？正直に答えたほうがいいのか？悩んでいたら……

すずか

「通りすがりの仮面ライダーじゃないの？」

すずかにあっさりとはらされた。

恭也・忍・ノエル・ファリン

「」「」「仮面ライダー？」「」「」

何で驚く？

忍

「特撮の？」

ちよつとまで、特撮って？

飛翔

「仮面ライダーって放映されているの？」

すずか

「今は、キバが放映されてるよ。」

なんて事だ・・・説明がめんどくさいな。

SIDE:OUT

SIDE恭也

恭也

「つまり、君は平行世界を旅している……その認識で間違いないか？」

信じられないな。その事が顔に出ていたのか彼はこう言い出した。

飛翔

「なら、証拠をみせますよ。」

そう言っただけでちやんが持っている鞆から四角の機械を取り出した。

そしてポケットから取り出したカードを差し込んで腹に当てるとベルトとなって装着された。

飛翔

「変身!!」

【TRUN UP】

カードが差し込まれたバツクルのカバーが回転してスペードのマークが描かれたカバーへと代わり、そこから彼の身長よりも一回り大きいカードが飛び出して彼の体を通り抜けていく。そして青い体に銀色のアーマーを身に付け、仮面を被った姿、『仮面ライダーブレイド』に変わった。その光景に俺・月村・ノエルさん・ファリンさんは口をあぐりと開け呆然としていた。すずかちゃんはあれ？と不思議そうな顔をしていた。

ブレイド

「これで信じてくれますか？」

すずか

「どうしてさっきと姿が違うの？」

他の姿もあるのか？

ブレイド

「俺は複数のライダーシステムを所持しているから、さっきとは別のライダーシステムを使ったんだ。」

そう言っただけで変身を解除してさっちゃんも持っている靴から色々な物を取り出しテーブルに並べる。並べられたのはカードケースのような物が『3つ』、先ほど靴から取り出した四角の機械とそれと同型の機械が『2つ』とトランプの様なものが5枚、後は、銃の様な物とカメラのような物と本の形をしたケース。

恭也

「これは？」

飛翔

「俺が持つライダーシステムの全部・・・ですね。」

恭也

「成る程な。空想の存在が実在すると言う事が、平行世界の存在を証明していると言う訳か？」

飛翔

「そう言う事です。」

SIDE:OUT

S I D E : 忍

彼は自分の秘密を明かしてくれた。なかなか信じられる話でもないけど・・・なら私達の秘密も明かすべきだろう。

忍

「夜の一族……私達は、そう名乗ってる……」

すずかは私の言葉に驚愕した。何故なら、その話をすると言うことは……自分達の秘密をばらすことだから。

恭也・飛翔

「夜の一族？」

2人はよく分からないと言った顔をしていた。この話を聞いて彼らは私達の事をどう思うのだろうか？

S I D E : O U T

2話・出会う者達（後書き）

鈴音

さて、今回は・・・

すずか

飛翔君の正体をばらしちゃいました。

忍

仮面ライダーって実在したんだね。

恭也

ああ、驚いたな。

飛翔

今回は恭也さん、忍さん、ノエルさん、ファリンさんと会いまして。後、仮面ライダーが放映されているのに驚きました。

鈴音

皆さん、コメントありがとうございます。さて次回は『夜の一族』についての説明とソレを聞いた2人の反応がメインです。

3話：夜の一族（前書き）

「私は月村すずかです。先程は助けに来てありがとうございます。」

「あなたは何者なの？」

「通りすがりの仮面ライダーじゃないの？」

「……仮面ライダー？」

「夜の一族……私達は、そう名乗ってる……」

3話：夜の一族

SIDE：忍

忍

「夜の一族……私達は、そう名乗ってる……」

恭也・飛翔

「夜の一族？」

2人はよく分からないと言った顔をしていた。

忍

「人の血液を力の源にいろんなことができる……西ヨーロッパで発祥してもうずっと古くから、細々と続いている一族……普通の人より、筋力とか敏捷性も、大分優れてるみたい。ほかにもいくつか秘密、あつたりするけど……だいたいはこんなところ……」

言ってしまった。私達が隠してきた事を……

SIDE：OUT

SIDE：恭也

これが月村の秘密か……

忍

「……………でね、一族の間の約束で……………『誓い』を……………立てるかどうか……………選んで欲しいの」

恭也

「誓い？」

忍

「選んで。今見たことを『忘れて』過ごすか、知ったまま一族と共に、秘密を共有して生きていくか……………忘れたいならちよつとしたおまじないで、忘れさせてあげる。秘密を共有してくれるなら血を分けた仲として……………私はきつと一生……………高町君の……………えと……………友達でもきょうだいでも他のでも……………関係はどうであれきつと、ずっと側にいる……………」

俺は、どう答えればいい……………

SIDE:OUT

SIDE:飛翔

一通り話を聞き終えた俺にすずかが静かにつぶやく。

すずか

「わかった？ わたしね、人の血を吸う化け物なんだよ」

そう呟くすずかの悲しそうな顔を見て……………それがとても辛くて……………
・俺はすずかになんて言えばいいのか分からなかった……………

SIDE:OUT

3話：夜の一族（後書き）

すずか

今回は短いね。

鈴音

作者が続きをどうするか悩みまくっているので分ける事にしたそうですよ。

すずか

2人はどんな答えをだすのかな？

鈴音

気になりますか？

すずか

もちろん！！

鈴音

ならその答えは次話の『2人が出した答え』で見てください。

4話・恭也が出した答え（前書き）

「夜の一族？」

「……でね、一族の間の約束で……『誓い』を……立てるかどうか
……選んで欲しいの」

「わかった？ わたしね、人の血を吸う化け物なんだよ」

4話・恭也が出した答え

SIDE:すずか

フアリン

「お嬢さ……「ああ、確かにすずかは化け物だ。」……っ、あなたは……」

飛翔

「化け物を化け物と言って何が悪い？そして、その事はたいして重要な事じゃない。」

すずか

「えっ……？」

夜の一族という正体をさらし、畏怖・拒絶・嫌悪、それらの感情が自分に向けられることに内心で恐怖してたのに彼は平気な顔をして『化け物』という単語をぶつけまくり、さらにそのことをたいして重要な事じゃないと言った彼を私は呆然と見ていた。

飛翔

「いいか、よく聞けよ。俺が旅をした世界にも人から見たら化け物と呼ばれる存在はわんさかいてしかもそのほとんど人間を殺したり傷つけたりしてそれを何とも感じない奴らばかりだった。」

SIDE:OUT

SIDE:飛翔

「ただ……それだけじゃなかった。」

飛翔

「ただ、俺は知っている。そんな奴らだけじゃないってことを。人間と同じように誰かを愛したり、その人の為に命をかけたりに理解しあえる存在を……俺は知っている！」

自分がオルフェノクにも関わらず、大切な人を……夢を守り続けている戦士を。

自身の自由と引き換えに1人の戦士を闇から解放放った2人のアンデットを。

神に代わり剣を振るった紫の蠍を。

飛翔

「人間だろうと吸血鬼だろうと化け物だろうと重要なのは自分が何者であるかじゃない……自分がどうありたいかだ！」

呆然としているすずかに俺が思った事を告げる。

飛翔

「すずか、お前はどうかありたい？」

S I D E : O U T

S I D E : 恭也

恭也

「誓うよ、一人の友人として……いや、親友かな……」

忍

「いいの？」

恭也

「ああ。確かに月村には普通の人と違う部分があるんだろうが、それがあつたところで俺の『月村忍』という一人の友人に対する評価が変わるわけじゃない。それにな……ぶっちゃけて言うと、俺もかなり普通じゃない」

忍

「え……？」

話すか……俺の過去を……

SIDE:OUT

SIDE:すずか

自分がどうありたいか……そんな事考えもしなかった。

飛翔

「それにな……自分がどんな存在か分かっているだけ幸せだと思っぞ？」

すずか

「どっしってっ」

どうしてそんな事を言うの？

飛翔

「俺は記憶喪失なんだ・・・」

記憶喪失！？

飛翔

「俺がどんな存在なのかすら分からない・・・ひょっとしたら俺は人間じゃないかもしれない・・・実際、今の名前だってある人が考えてくれた名前だしな。」

どうして？

すずか

「怖くないの？」

自分が何者なのか分からないのは怖くないの？

飛翔

「少しは怖いと思うけどな・・・結局のところ俺は俺だしな。それにジジイから『人生に必要なのは調と遊び心』って言葉を賜ったしな。」

すずか

「??？」

飛翔

「悩むのはその時でいい、俺は今この時を楽しむ・・・それが俺の

出した答えだ。」

S I D E
O U T

4話・恭也が出した答え（後書き）

鈴音

さて、この話では恭也さんが答えを出し、飛翔さんは自分の考えを話しました。ところで話に出てきたジジイって誰ですか？

飛翔

『魔導師の世界』の前に訪れた『怪盗の世界』であった人？の事です。

鈴音

どうして？なんですか？

飛翔

アレを人として見ていいのかと思ってさ・・・

鈴音

なんか聞くのが怖くなりました。

飛翔

いつか語られるはずだから・・・

鈴音

そうですね・・・では、次の話でまたお会いしましょう。

5話・飛翔が出した答えと事情説明（前書き）

「すずか、お前はどうかありたい？」

「誓うよ、一人の友人として……いや、親友かな……」

「俺は記憶喪失なんだ……」

「怖くないの？」

「悩むのはその時でいい、俺は今この時を楽しむ……それが俺の出した答えだ。」

5話・飛翔が出した答えと事情説明

SIDE：恭也

さて、あつちはどうなったのかを見に来たら・・・

飛翔

「それじゃあ、一族としての誓いはできないけど…俺なりの誓いを交わそうか？」

丁度、誓うところだった。

忍

「ナイスタイミング！」

嬉しそうな顔で覗くな月村。飛翔・・・ドンマイだな・・・

そう考えながら俺も覗く事にした。飛翔はテーブルの上に本の形をしたケースから取り出した10枚のカードを出し、それを並べ言葉を紡ぐ。

飛翔

「俺が出会い共に戦った戦士達を象徴するこのカードに誓ってあなたを護ることをここに誓う。戦士達の力を継ぎし者として、俺がこの世界に居る限りすずかに怪我1つ負わせはしない。」

これが飛翔の覚悟か・・・だがこの世界に居る限りとはどういう意味だ？

SIDE:OUT

SIDE:忍

いや〜いいのが見れたわ。そんな事を思いつつ私達は今回のことについて話をすることにした。

忍

「私の家は、いわゆる名家とか、そういう風に一族の中では位置づけられている家で、資産もあつたの。でも、数年前に私達の両親が交通事故でぼっくり逝っちゃって……そのせいで遺産相続が発生したのが始まり」

ノエル

「忍お嬢様の後見人は、一族でも長老格とされる、忍お嬢様のお祖父様が務められ……遺産は概ね、親戚各位に均等に分配されました。忍お嬢様に残されたのは、生活に不自由しない程度の現金と……この屋敷と、ご両親の思い出の品である美術品数点、そして私達のみでした」

恭也・飛翔

「……ノエルさん達？」

自分も遺産の一部のような言い方に、恭也と飛翔君は首を傾げる。苦笑して事実を教える事にした。ノエル達が『夜の一族』の技術の結晶である自動人形と呼ばれる存在である事を話す。

忍

「驚いた？」

恭也

「今更そういわれてもな。」

やっぱり驚かないか。

飛翔

「知り合いにその『世界』最高の人工知能がいるからそんなには驚きませんね。」

あなたの交友関係に驚いたわ。人工知能は一度見てみたいな・・・

忍

「で、遺産相続の協議が終わってから、分配条件が不当だとかケチつけ始めるヤツがいてね」

恭也

「それが今回の犯人か」

忍

「まあ、十中八九。でもお祖父ちゃんに直接言っても、却下されるだろうしね・・・だから私達を狙った。私みたいな小娘なら何とかなるとでも踏んだ。だから脅迫を掛けてくるのよ。ここまでやられたのは初めてなんだけど」

2人の表情が険しくなってきた。

飛翔

「報復しましょう・・・」

物騒な意見ね・・・

恭也

「ふむ・・・・・・・・告発は？」

恭也の意見は結構まともなんだけど・・・

忍

「それがさ・・・小ずるいやツでね・・・・・・・・絶対に自分で手を下さないし、雇ったやつも使い捨て。尻尾が掴めないから誰もあいつ本人に手が出せないの」

飛翔

「最低ですね・・・・・・・・」

恭也

「・・・・・・・・解決するまでは、ほとんど張っていた方がいいのか」

忍

「・・・・・・・・ん・・・相手は半分化け物の、うちの一族だし。恭也達には悪いけど、あまり無理はしてほしくない。気持ちは嬉しいけどね。」

そう言えば気になっていた事がある・・・

忍

「飛翔君はこれからどうするの？」

SIDE:OUT

SIDE：飛翔

飛翔

「俺ですか？ 適当な場所で野宿をしようと考えていますけど？」

『響鬼の物語』で『猛士』の支給品のアウトドア商品やディスクア
ニマルを貰ったし思い出したくもないジジイの所業のせいで多少は
慣れてるし……

忍

「泊まっていけない？」

はい？

飛翔

「いいんですか？」

こう言うては何だが……身元不明の人間を泊めていいものなのか？

忍

「この家、無駄に部屋があるしあなたの旅の話も聞いてみたいしね。」

ノエル

「それにすずかお嬢様を助けていただいたお礼もしたいですし……」

すずか

「・・・」

無言で見てください。・・・どうしようかな、正直、野宿はきついしな・・・よし、決めた。

飛翔

「分かりました。それでは、しばらくお世話になります。」

こうして俺は月村邸にしばらくお世話になる事になった。

SIDE:OUT

5話・飛翔が出した答えと事情説明（後書き）

すずか

後書きです。今回は事情説明と飛翔君の居候先が決まりました。

飛翔

今回、居候が決まりました飛翔です。本当にありがとうございます。

すずか

そう言えば今まではどうしていたの？

飛翔

『9つの仮面ライダーの世界』は光写真館に居候。
その後は、

『ブレイドの物語』、白井虎太郎の家

『クウガの物語』、警視庁

『響鬼の物語』、たちばな

『ファイズの物語』、野宿

『電王の物語』、デンライナー

『龍騎の物語』、北岡法律事務所

『アギトの物語』、野宿

『キバの物語』、紅渡の家

『カブトの物語』、神代邸

『怪盗の世界』、中国の山奥・・・以上です。

すずか

野宿が2回も！？

飛翔

「何度、アンノウンに殺されかけたか・・・」

「すずか

「これ以上、聞くのは怖いので今日はここまで。では6話、御神の
剣士vs夜の騎士をお楽しみに。」

6話：御神の剣士vs夜の騎士（前書き）

「俺が出会い共に戦った戦士達を象徴するこのカードに誓ってあなたを護ることをここに誓う。戦士達の力を継ぎし者として、俺がこの世界に居る限りすずかに怪我一つ負わせはしない。」

「泊まっていけない？」

「いいんですか？」

「この家、無駄に部屋があるしあなたの旅の話も聞いてみたいしね。」

「分かりました。それでは、しばらくお世話になります。」

6話：御神の剣士vs夜の騎士

SIDE：飛翔

なんでこんな事になったのかな・・・手遅れだと分かっているのに
そんな事を考えていた。

それは数十分前の事・・・

この日、何時ものように月村邸にやって来た恭也さんが・・・

恭也

「一回、『仮面ライダー』と戦ってみたな・・・」

そう言ったのだ。そしてこの言葉をきっかけに・・・

忍

「私も他の仮面ライダーを見てみたいわ。」

まず忍さんがそう言って・・・

すずか

「私もみたいな。」

次にすずかがそう言って・・・

ファリン

「出来れば私も・・・」

最後にファリンさんが遠慮がちにそう言った。

ちなみにノエルさんはさっきまで恭也さんと模擬戦をやっていて今は休んでいる。

飛翔

「俺に拒否権は？」

最後の望みをかけて聞いてみたのだが・・・

忍・すずか

「ないよ(^-^)(」

即座に却下された。

そして今に至る。で俺はどのライダーシステムを使い変身するか悩んでいた。ゾルダは却下。ディケイド、ブレイドは見せたからこれも却下。ギャレンは銃が主武装だし・・・考えた末に蝙蝠のレリーフがついているカードデツキを取り出しVバツクルを呼び出した。

飛翔

「行きますよ・・・変身!」

Vバツクルにデツキをはめ込むと同時に自分の姿を『仮面ライダーナイト』に変えた。

ナイト

「さあ、始めましょう。」

ダークバイザーを抜きデツキから取り出したカードをベントインする。

【SWORD VENT】

認証音声が響くと共に召喚されたウイングランサーを掴み取った。

SIDE：OUT

SIDE：恭也

あの仮面ライダーは見た感じだとカードを使う、そして接近戦が主体みたいだな。

ナイト

「はああああ!!」

考えている間に俺を突き刺そうと槍が迫るが・・・

恭也

「甘いな。」

左手に握る小太刀で槍の軌道をずらして右手に握る小太刀で仮面ライダーに切りかかる。

ナイト

「くっ!!」

とっさに槍を手放し後ろに飛び腰に装着されたデッキからカードを取り出し腰にぶら下げた剣を抜きカードを入れた。

【GURAD VENT】

電子音が聞こえると共にマントが纏われた。先程聞こえた電子音からあれは防具だと予想して攻撃を仕掛ける。がナイトはマントを上手く使い攻撃を防ぐ。

ナイト

「ギリギリか・・・」

恭也

「ふむ。」

どうやら、向こうは防ぎきっているみたいだが攻撃に移る余裕はないらしい。ならば・・・

御神流『徹』

・・・御神流の基本であり、外部ではなく内部に衝撃を与える攻撃手段。それを込めた一撃をナイトは今まで通り攻撃を防ぐが・・・

ナイト

「防いだのに衝撃が来る？」

この状態に驚いていた。すると何を考えたのか距離を取り1枚の力ードをデッキから取り出し剣に入れた。

【TRICK VENT】

電子音が響いたのと同時にナイトの姿がぶれその数を4人に増やした。

すずか

「増えた!？」

見学まほししていたすずかちゃんちゃんが驚いていたが内心、俺も驚いていた。幻まほしなのか?そう思ったが4人の攻撃を防いで気付いた。

恭也

「全部、実体が存在するだ!!」

驚きつつもこの状況を打破する為にも『切り札』を使う決心をする。

御神流奥義之歩法『神速』

そして俺の視界・・・世界から色が消えた。

S I D E : O U T

S I D E : 飛翔

ナイト

「消えた？」

恭也さんの姿が消えた。どうやって？そんな事を考えていた次の瞬間、ダークウイングからの警戒音が聞こえてきた！！

ナイト

「ぐっ・・・」

とっさにダークバイザーで防いだがかなりのダメージを受けてしまった。

恭也

「惜しいな。」

そう呟く恭也さんも少し疲れたように見える。

恭也

「これで決める・・・」

そう言って恭也さんが消えたのと同じにとっさにデッキから一枚の

カードを抜いてダークバイザーにセットし・・・

ナイト

「また、けどコレなら・・・」

【NASTY VENT】

認証音声が響いた。

SIDE:OUT

SIDE:忍

電子音が響いた瞬間・・・

恭也

「ぐあああっ」

いきなり叫び声をあげて耳を押さえ蹲った。

忍

「どうしたの？」

ナイト

「音だからな、簡単には防げない。」

どうやら彼は間接的な攻撃でダメージを与えたらしい。そんな事を考えていると・・・

【ADVENT】

その電子音が響くと共に恭也の持っていた小太刀から蝙蝠が現れ恭也の周りを飛び回った。

忍

「なにあれ？」

後で飛翔君から話を聞かないとね。そして恭也はどんな動きを見せるのかな・・・

SIDE：OUT

SIDE：飛翔

恭也

「くっ！！・・・御神流奥義之三『射抜』」

次の瞬間、ダークウイングは悲鳴のような鳴き声をあげミラーワールドに戻った。

ナイト

「嘘！？」

ダークウイングがダメージを受けた！？拙いな、残りのカードが少ないし『アレ』は切り札だから隠していたいし、こっぴどなら・・・

ナイト

「恭也さん決着をつけましょう。」

そう言つて一枚のカードを取り出しセットする。果たして恭也さんはのつてくれるかな？

恭也

「ああ……」

乗ってきた！？よく見ると呼吸が荒くなっているような気がする。ひよつとして恭也さんも限界に近いのか？そんな事を考えながら俺は先ほど入れたカードの効果を発動させる。そのカードの名は……

【FINAL VENT】

電子音が響くと同時に、駆け出し…ウイングランサーを芯にし、マントがドリル状に変形する。そして、そのまま恭也さんに向かって突撃していく。

ナイト

「喰らえ、飛翔斬！！」

一方、恭也さんも、体勢を整え叫ぶ。

恭也

「御神流奥義之六『風旋』！！」

SIDE:OUT

6話：御神の剣士vs夜の騎士（後書き）

後書き

すずか

みなさん、本当にお久しぶりです。

飛翔

作者のリアルが忙しくこんなに遅くなりました。

鈴音

さて、今回私が思った事は・・・

すずか・飛翔

思った事は？

鈴音

恭也さん、強すぎです。

すずか・忍・ノエル・ファリン

確かに・・・

飛翔

それには、理由があります。

忍

理由？

飛翔

それは、次の話で説明します。これから、よろしくお願いします。

7話：説明と動き出す者（前書き）

「一回、『仮面ライダー』と戦ってみたな・・・」

「行きますよ・・・変身!」

「これで決める・・・」

「喰らえ、飛翔斬!」

「御神流奥義之六『凧旋』!」

7話：説明と動き出す者

SIDE：すずか

お姉ちゃんと一緒に飛翔君達が居る場所に向かうと・・・

飛翔

「強すぎですよ、恭也さん。」

大の字に寝そべった飛翔君がそう言っていた。

恭也

「何を言う、俺に『神速』を使わせたんだ、お前も十分強いぞ。」

飛翔

「『神速』？」

恭也

「御神流・・・俺の剣術の奥義の1つだ。膝に爆弾を抱えている身では使用が制限されているがな・・・」

そんな状態で仮面ライダーと互角・・・なんだか私が今まで悩んできたのが馬鹿みたいな気がした。

SIDE：OUT

SIDE：飛翔

忍

「で、アレは何かな？」

いきなりそう言われても・・・アレ？ああ・・・

飛翔

「ダークウイングの事ですか？」

忍

「そつよ！」

そつ言えば説明してなかったな。

飛翔

「契約モンスターですね。」

すずか

「契約モンスター？」

飛翔

「基本的に龍騎系、カードデッキタイプの仮面ライダーには必要不可欠な存在です。」

忍

「なんで？」

飛翔

「カードデッキタイプの仮面ライダーは契約モンスターがいる事で力を発揮します。逆に契約モンスターがいないと力を充分に発揮出

来ません。」

すずか

「どんな契約モンスターがいるの？」

飛翔

「秘密だよ。その内、教えるよ。」

この日はこうして終わった。

SIDE：OUT

SIDE：???

何処か分からぬ場所・・・そこに2人の男の姿があった。

???

「しかし、今週の土曜日に行動とは性急すぎませんか？
綺堂の娘からも釘刺しがあったばかりですし・・・。」

懸念を持ち出す部下の男は不安そうな表情を見せる。

???

「だから、や。あの小娘は忠告した直後なら、すぐには動かんと思
うとる。そこを逆手に利用するんや。」

成功することを疑っていない男は、心底愉快そうに笑い声を上げる。

???

「なるほど!!」

男の意図が分かったのか部下の顔に安堵の表情が浮かぶ。

???

「くくくく・・・週末が楽しみや」

飛翔達の知らないところで事態は動いていた。

S I D E : O U T

7話：説明と動き出す者（後書き）

恭也

さて、今回は・・・

すずか

恭也さんの人外級の強さについて・・・

恭也

なんで？違うよ。今回は・・・

飛翔

恭也さんが仮面ライダーと互角に戦えた理由の説明です。

忍

そうそう、さっそく教えてもらおうよ。

飛翔

まず、俺がナイトを余り使用していないからです。

すずか

どう言う事？

飛翔

俺はディケイドをよく使うからな、実際手持ちのライダーシステムでも使っていないものもあるしな。

恭也

ちなみにディケイドを使えば俺に勝てるのか？

飛翔

勝てると思いますよ。ディケイドの強みは選択肢の多さですからね・

忍

選択肢の多さ？

飛翔

ディケイドは9人の仮面ライダーの力を持つ仮面ライダーですからね。相手に応じて変身すれば何とかかなりますよ。

恭也

ちなみに俺と戦う時はどんな手を使つつもりだ？

飛翔

近距離戦闘は恭也さんに負けるのは確実なのでクウガのペガサスフォームやキバのバツシャーフォームを使いますね。

すずか

なるほど、次はディケイドを見せてね。

飛翔

分かりました。では本日はここまで。

8話・月村邸襲撃（前書き）

「強すぎですよ、恭也さん。」

「何を言うつ、俺に『神速』を使わせたんだ、お前も十分強いぞ。」

「しかし、今週の土曜日に行動とは性急すぎませんか？」

「くくくく・・・週末が楽しみや」

8話・月村邸襲撃

SIDE：飛翔

その時は、意外な程早く来た。

忍

「っ!？」

ソファーでくつろいでいた忍さんが、弾かれたように家の門のある方向へと顔を向けた。

恭也

「……………どうした？」

忍さんの様子に恭也さんも何かを感じたのだろう……表情を険しくする。

忍

「……………アイツだ……この気配、間違いない」

アイツ？黒幕の登場か？忍さんのただならぬ様子に理由を推測できたのだが、恭也さんの一応の問いかけに忍は小さく首を振って答えた。恭也さんは持ってきていたバッグを持つ。

忍

「油断した……さくらが来たばかりだから、暫くはないと思っただのに。ノエル、ファリン、ケースにブレードがあるはずだから。念のために準備して」

ノエル・ファリン

「「はい」」

そう言われたノエルさんが、スーツケースを持ったことを確認すると、忍さんは俺と恭也さんのほうに視線を向ける。

恭也

「問題ない。いつでもいける」

飛翔

「こっちも大丈夫です。」

デイケイドライバーを手に持ちうなずく。忍さんは心持ちほつとしたような顔になり、ノエルさんに合図をして駆け足で月村邸の門を目指す。ノエルさんがその後には続き、少々遅れて恭也さんと俺がついていく。ファリンさんには念の為にすずかの側にいてもらう事になった。

S I D E : O U T

S I D E : 恭也

俺達が門の前に着くのと時を同じくして、1台の大きな幌付きトラックが角を曲がって月村邸に向かってくる。俺達は引き締めた視線で近づいてくるトラックを見る。トラックの運転台には4人。一人は取り立てて印象のない細面の男。中年の四角い印象の横柄そうな男。そして二人の間に無表情に座る、金色の髪的美少女。そして・

飛翔

「あいつは!?!?!?!」

4人目を見た飛翔が驚いた声をあげる。

恭也

「知っているのか？」

飛翔

「すずかをさらった連中と一緒にいた男です。」

なんだと!?!?

飛翔

「忍さん、あなたの親戚はどれですか？」

忍

「……あの太っているヤツが安次郎。私の親戚で、とにかく金に汚い男」

恭也

「ふむ」

ひどい評価だがもっともだと思ってしまった。ただ恭也は、安次郎よりもその隣にいる少女のことのほうが気になった。少女を見た時、まるで人形のような感じがしたのだから……そんな事を考えているうちに、トラックは月村邸の門の前で停まった。

SIDE:OUT

SIDE：飛翔

それからトラックを降りた安次郎の話の聞き続け・・・ムカついてきた。

安次郎

「お前ら何でこいつらを護ろうとするんや？こいつら、化け物なんでしょう？」

そしてこの言葉でキレた。

飛翔

「違うな……。」

安次郎

「何やと？」

怪訝そうな表情で俺に問い掛ける。

飛翔

「化け物ってのは人の大切にしている絆を壊す事になんの罪悪感を覚えない貴様のような奴だ。」

あと、ジジイとジーモン辺境伯みたいに時間流からいなくなるような奴も俺の中では化け物に分類されている。ちなみにクイーンは怪盗、ジョーカーは苦勞人に分類されている。

安次郎

「なんなんや？貴様、一体何者や？」

喚きたてる安次郎の言葉に笑みを浮かべバツクルを腰に当てベルトにしてライトブッカーからカードを取りだし答えた。

飛翔

「自分探しの旅をしている通りすがりの仮面ライダーだ、覚えておけ！！変身！！」

バツクルにセットする。

《KAMENIRIDE…DECADE!!》

電子音が響いた。

SIDE:OUT

SIDE:???

あの姿は・・・間違いない！あのガキだ！！あのガキに俺の式神は敗れ、俺は全てを失った。

安次郎

「ちょっと待てや、お前の相手は用意しとるで。」

依頼主は慌てたような声で何かを言っている。ははは、約束は守ってくれろみたいだな。

ディケイド

「何だと？」

安次郎

「先生、お願いします。」

出番だな・・・

飛翔

「お前はあの時の……」

憶えていたのか・・・

術者

「貴様のせいで俺は全部失くしたんだ。だからさ……死んでくれよ。」

手に握っていた水晶玉を砕き・・・そしてここに封じられていた異形の生物が俺を核として姿を現す。

SIDE：OUT

SIDE：忍

現われたアレの姿はまさか・・・

恭也・忍・ノエル

「「「鬼!?!」」」

ディケイド

「また式神か？」

鬼

「こいつは本物だ。死ね！！」

その言葉と同時に放たれた鬼の攻撃を飛翔君はギリギリで避ける事が出来たが私達はその威力に驚いた。

デイケイド

「危なかった。恭也さん、こいつの相手は俺がします。先生とやら…仮面ライダーをなめるなよ！！こんな時は、こいつだ！」

1枚のカードを取り出し叫ぶ。

デイケイド

「鬼には鬼ってな…変身！！」

《KAMENIRIDER…HIBIKI!!》

紫の炎が全身を包み込み姿が変わった。

忍

「姿が変わった!？」

驚いている間に飛翔君はカードをセットする。

《ATTACKRIDER…ONGEKIBOUREKKA!!》

電子音と共に現われた紅く輝く鬼の顔をかたどった石が先端に付いた2本の棒《音撃棒・烈火》を両手に持ち構える。それを見た鬼は

森に向かう。それを見た飛翔君も追いかけるように森に向かった。

SIDE・OUT

8話・月村邸襲撃（後書き）

飛翔

さて、第一部もクライマックスに入ります。

すずか

今回は飛翔君が主役だったね。

恭也

俺の出番は？

忍

恭也は次の話で活躍するそうよ。

恭也

そうか・・・

すずか

では9話、御神の剣士VS自動人形で会いましょう。

9 話：御神の剣士VS自動人形（前書き）

「・・・アイツだ・・・この気配、間違いない」

「お前ら何でこいつらを護ろうとするんや？こいつら、化け物な
やで？」

「違うな……。化け物ってのは人の大切にしている絆を壊す事にな
んの罪悪感を覚えない貴様のような奴だ。」

「なんなんや？貴様、一体何者や？」

「自分探しの旅をしている通りすがりの仮面ライダーだ、覚えてお
け！！変身！！」

9話：御神の剣士VS自動人形

SIDE：恭也

恭也

「お引き取り願おうか？」

目の前の男を殺気を込めて睨みつける。

安二郎

「ぐう……！　こ、この糞餓鬼が！　こうなったら……
イレイン……！」

度重なる挑発にキレた安次郎は隣にいた少女の名前を呼ぶ。呼ばれた少女は、無言のまま一歩進み出て右手から鞭のようなものを取り出した。

忍

「なっ！？　まさか、自動人形！？」

その光景に月村は驚いたが俺は逆に納得した。人形みたいだなと感じたのは間違いじゃなかったみたいだな。

忍

「それにアレは　鞭？　いや、違う……まさか、『静かなる蛇』！？　それじゃ彼女は　」

安次郎

「流石やな。エーデイリヒ式最終試作型自動人形、通称『最終機体』

イレイン。コイツにお前の自慢のノエルがぶっ壊されると、大
しく渡すんと……どっちがええ？」

忍

「安次郎……馬鹿なことはやめなさい。戦闘させるってこ
とは、『アドバンスド・モード』を使うってことなのよ?」「

『アドバンスド・モード』?なんだか嫌な予感がする。

安次郎

「……何を言ってるんや?」

本当に知らないといった表情で答える安次郎に、忍は驚きの表情を
隠せないでいた。

忍

「知らないで『最終機体』を使ってるの!? あんた、ノエルを壊
す代わりに自分も死ぬわよ!? ……やめなさい! ここにいる全
員、死ぬわよ!?!」

安次郎

「止めさせようとしてもそうはいかんで!」

静止の言葉は通じず、安次郎はイレインのセーフティ・モードの解
除を許可してしまう。そして制止をする間もなく、装着したブレイ
ドで安次郎を引き裂いた。

恭也

「なっ……」

腹から血を流しながら安次郎は、地に倒れ付す。

忍

「イレインは、自動人形に『自我』を持たせる研究の成果の粹を集めた機種……束縛されず、従属せず、人間として生きるために作られた自動人形……」 “起動者殺し” の『最終機体』。だから、言ったのに……」

イレイン

「アハハ、正解。さて、そういうわけで、アンタたち、目撃者ね？」

その言葉と共にトラックからイレインと同じ顔の自動人形が5体現われた。

忍

「うそっ!？」

につこりと笑いながら、イレインはバシンと鞭を手で引っ張る。何をやる気かは、その動作で一目瞭然であった。

恭也

「ノエル、後から出てきた自動人形の相手を頼む。」

恭也がノエルの前に出る。そして、バッグから二本の布の巻かれた棒を取り出すとバッグを後方に投げる。

イレイン

「……何？ たかが人間風情が、アタシに勝てるっても？」

恭也

「ふむ、ただ勝つだけならそんなに難しくはないだろうな。それに……」

そう言うと、恭也は棒に巻かれた布を取り払う。現れたのは、刀より短く脇差より長い刀。小太刀。

恭也

「あいつだけに任せっぱなしって訳にはいかないしな。」

イレイン

「さつきからごちゃごちゃと。たかが人間風情が、舐めた口ばかり！アンタは望みどおり、アタシが直々に殺して、あの女の前に首を突きつけてあげるわ！」

憤りを隠さずに、イレインは恭也に襲い掛かった。

恭也

「永全不動八門一派 御神真刀流小太刀二刀術、師範代 高町恭也、推して参る。」

SIDE:OUT

9 話：御神の剣士VS自動人形（後書き）

恭也

今回は俺がメインだな。

すずか

私、出番なし・・・

飛翔

どうやって出番作るの？

恭也

さて、ここでお知らせだがこの投稿がGW前の最後の投稿になるらしい。

すずか・飛翔

どうして！？×2

恭也

作者の里帰りだそうだ。

飛翔

そうですか・・・

忍

ならしかたないね・・・

飛翔

では、次の話で会いましょう。

10話：ファイナルカメンライド（前書き）

投稿、遅くなりました。

「お引き取り願おうか？」

「なっ！？ まさか、自動人形！？」

「ノエル、後から出てきた自動人形の相手を頼む。」

「・・・何？ たかが人間風情が、アタシに勝てるだけでも？」

「永全不動八門一派 御神真刀流小太刀二刀術、師範代 高町恭也、
推して参る。」

10話：ファイナルカメンライド

SIDE：飛翔

鬼

「ガアアアアア!!」

叫びながら突撃して来た。

D響鬼

「ガアアアアア!!」五月蠅い!!」

バックルにカードをセットする。

《ATTACK RIDE：ONIBI!!》

D響鬼

「くらえ!!」

口から放たれた炎、『鬼闘術・鬼火』が鬼の身を包み込んだ。

D響鬼

「どうだ?」

鬼

「.....」

鬼火が消え、そこには無傷に近い鬼が立っていた。

D 響鬼

「効いてない!？」

嘘だろ!？

D 響鬼

「接近戦をやるしかないのか？」

《ATTACK|RIDE! : ONIDUME! !》

手の甲から生えた爪、鬼爪を確認し鬼と対峙を続けた。

SIDE : OUT

SIDE : ？？

．．セ!

ヤ．．コ．セ!

唐突にそんな言葉が頭に浮かんだ。俺は何を言っている? 考えて、考えて．．．ようやく分かった。俺はこう言っているのだ。

ヤツヲコロセ!

SIDE : OUT

SIDE : 飛翔

くそっ！！押されている。力不足なのか？ならっ！！

《F O M E R I D E ∴ H I B I K I ・ K U R E N A I ！！》

電子音が響いたと同時に体が紅に染まりその姿を響鬼の強化形態、響鬼・紅に変える。

しかし・・・

D 響鬼 K

「これでもまだ力不足なのか・・・」

正直、この鬼の強さは『ファイズの物語』で戦ったラッキークロバーと互角だ。

D 響鬼 K

「切り札を使うしかないか・・・」

向こうの・・・恭也さん達の状況も気になる。ライドブツカからこの状況を打破する切り札の1枚を取り出しバツクルにセットする。

《F I N A L K A M E N R I D E ∴ H I B I K I ・ A R M E D
！！》

電子音が切り札の名を告げる。そして、右手に握る剣、アイムドセイバー装甲声刃を目の前に構え叫ぶ。

D 響鬼 K

「響鬼装甲!!！」

叫んだと同時に辺りからディスクアニマル達が現れ身体に纏まりつきディスクアニマル達が鎧となって装着され俺の姿を装甲響鬼^{アームド}に姿を変えた。そして黄色のライダーカードを1枚取り出しバツクルにセツトする。

《FINAL - ATTACK RIDE : HI・HI・HI・HI
BIKI!!》

D 響鬼 A

「これで終わりだ！鬼神覚声…!!！」

装甲声刃に向けて声を出し、その声を音撃に変えていった。この鬼を倒すには俺が今持つ全ての力を限界ギリギリまで溜めて、一気にぶつけないければ倒せない。それを確信したからこそ残された全ての力を声に変え、それを音撃に変えていった。

D 響鬼 A

「はあああああああ………」

そして今まで溜めてきた音撃の力を解き放とうと装甲声刃を振りかぶる！それを悟ったのか鬼が叫びながら此方に目掛けて駆け出した。

鬼

「ガアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアッ!!!!！」

これで決める……

D 響鬼 A

「でやあああああああああああああああつ!!!!!!!!!!」

駆け出した鬼目掛けて装甲声刃から炎の刃を放つ！しかし、鬼はそれを受け止めた。

D 響鬼 A

「ウソだろ!？」

あまりの光景に呆然としたが・・・鬼が受け止めるだけで精一杯なのに気付いた。なら、俺がやることは・・・

D 響鬼

「くたばれえええええええええつ!!!!!!」

装甲声刃で鬼に斬りかかる。

鬼

「グ…グガッ、グガアアアアアアアアアアアアアアッ!？」

受け止めるだけで精一杯の状況に俺が斬りかかった事で受け止めていた攻撃に飲み込まれていった。鬼が悲鳴を上げる間も無く炎の刃、鬼神覚声の一撃を受け地面に倒れ伏しそこには、先生と呼ばれた術者が倒れていた。術者の体の自由を奪い近くの木に縛り付けた。

D 響鬼

「急いで戻らないとな……」

1枚のカードをバツクルにセットした。

《FOMERIDE…FAIZIAXEL!!》

その姿を仮面ライダーファイズアクセルフォームに変え…

《STARTUP》

電子音が響くと共にその場から姿を消した。

SIDE:OUT

10話：ファイナルカメンライド（後書き）

後書き

飛翔

こちらは、俺の辛勝でした。

すずか

危なくなかった？

飛翔

はい。正直、FKRのカードが無ければ負けてたね。

ファリン

FKRのカードってなんですか？

飛翔

クウガ、アギト、龍騎、ファイズ、ブレイド、響鬼、カブト、電王、キバの最強フォーム（アルティメット、シャイニング、サバイブ、ブラスター、キング、アームド、ハイパー、ライナー、エンペラー）にカメンライドするカードで俺が『9つの物語』を巡って手に入れた力です。

すずか

そっなんだ・・・ところで私の出番は？

飛翔

予定だと次の話で出番があるらしい・・・

すずか

よし、次の話を楽しみに待っているよ。

11話：御神流奥義之極（前書き）

「ガアアアアア！」

「ガアアアアア！」五月蠅い！」

「くたばれええええええええええつ！！！」

「グ…グガツ、グガアアアアアアアアアアアアアアッ！？」

「急いで戻らないとな……」

11話：御神流奥義之極

SIDE：恭也

後から現われた自動人形、オプションはノエルがそのほとんどを壊した。一方の俺はと言つと……

イレイン

「あたしが人間なんか……」

今一步のところで決定打を決める事が出来ずにイレインを倒しきれていなかった。

恭也

「御神の剣士は守る者がいる限り、決して負けない。」

だが状況が厳しい事も事実だった。切り札の『神速』も使えるのが後、1回が限界。それでも……

イレイン

「いいかげん死んでよ。」

『静なる蛇』が俺めがけて放たれた。

恭也

「負けるかああああ!!」

《小太刀二刀御神流、奥義之歩法、神速》

俺の視界から色が消え周りの動きが遅くなった。おそらくこの戦闘では最後になる神速。だから、コレで決めないと後がない。

恭也

「うおおおおお！」

今、恭也の剣のすべてがここに集約する。大切な友人を護る為に振るう剣。そしてそれは、今は亡き『最強の御神の剣士』である恭也の父親・高町士郎すらも辿り着くことができなかった高みへと恭也を導く。

光を見た……

見えた……

一筋の閃きの道を見た。

そこに、「八景」を滑らせる。

ド、ゴオツ！！

何かがぶつかった音が辺りに響く。

忍

「な、なに？……」

音が響いた場所には弾き飛ばされ動きを完全に泊めたイレインと……

恭也

「でき……た？」

……膝を押さえボロボロになった恭也がそこに居た。

恭也が最後に放った一撃、それは歴代の御神の剣士の中でも使えたものが少なく、膝を壊した俺が絶対に届かないと思っていた技……

小太刀二刀御神流奥義之極『閃』

SIDE:OUT

SIDE:すずか

心配になった私はファリンに見つからないようにこっそりと外に出た。そこで見たのは……

恭也

「限界か……」

そう言つて膝を押さえつずくまる恭也さんだった。

すずか

「恭也さん!？」

恭也・忍

「「すずか(ちゃん)!？」」

2人が私を……私が居る方を見て顔色を変える。

忍

「そんな……」

お姉ちゃんが悲鳴をあげた。そこにいたのはまったく同じ顔の3人の女性。

恭也

「オプションが、まだいたのか……」

動けない恭也さん達をしり目に女性達……オプションは右腕に装着されたブレードを私めがけて振り落とそうと、突き刺そうと動いた。

忍

「すずかあああああああっ！！！！」

《TIME OUT》

辺りに悲鳴が響く中で唐突にそんな電子音が聞こえた。

忍

「えっ？」

恭也

「なっ！？」

その電子音が聞こえ目を開けると私の前に仮面ライダーがいた。彼

は1枚のカードを取り出しバツクルに入れた。

《ATTACK RIDE: AUTO VAJIN!!》

目の前にバイクが現われ、更にその身を変形させてロボットのよう
な姿へ変わると、すぐ近くに居たオプシヨンの一体へとその拳を凄
まじい勢いで叩き込んだ。

吹き飛びその衝撃で破壊されたオプシヨン。しかし、そんなことよ
りもすずかたちは目の前に現れたロボット オートバジンバトル
モードを呼び出した仮面ライダーに釘付けとなっていた。

その時になってすずかは、ようやく気付いた。

どうして?・・・

何故、彼のお腹にブレードが突き刺さっているの?

何故、彼の足もとが赤い液体で染まっているの?

私を庇ったから?

私が勝手に外に出たから?

すずか

「……や……」

私のせい？

すずか

「いや……」

私が外に出たから彼は私を庇って……刺された……

すずか

「いやあああああつ！……」

SIDE:OUT

11話：御神流奥義之極（後書き）

飛翔

出番あつたな・・・

すずか

刺されてるのにその反応なの!?

飛翔

実際、刺されたところがやばい・・・・・・・・・・どっしりよっっ

忍

すぐに病院に行きなさい。

飛翔

は、はい!

忍

よろしい、さてみんな。第一部最終話「闘いが終わって・・・・」お楽しみに・・・

飛翔

最終話!?

すずか

それよりも第一部?第二部もあるの?

忍

詳しくは・・・

すずか・飛翔

詳しくは？

忍

次のお話で明らかになります。

最終話：「闘いが終わって・・・」

SIDE：飛翔

デイケイド

「まず・・・い・・・か・・・な・・・」

すずかに刺さろうとしたブレードを見てとつさにすずかを庇って攻撃をつけたが思っていた以上に傷が深く動けない。しかもアクセルフォームからデイケイドに姿が戻っていた。

デイケイド

「使う・・・か・・・」

俺はデイエンドライバーに2枚のカードを装填して右手に構える。

《KAMENIRIDE：IXA！！》

《KAMENIRIDE：SAGA！！》

デイケイド

「頼む！！」

出せる力を振り絞ってデイエンドライバーにカードを装填し、トリガーを引く。すると変身したようにいくつものシルエツトが現れてそれが交錯しあい やがて、2体のライダーとして姿を現す。現れたのは・・・

イクサ

「その命、神に還しなさい。」

サガ

「…王の判決を言い渡す。…死だ！」

…『キバの物語』で出会った仮面ライダー達。

2人がオプションに向かうのを薄れゆく意識の中で見た俺は更に1枚のカードをディエンドライバーに装填した。

《ATTACK|RIDE|CROSS ATTACK!》

そして、俺の意識を闇が塗り潰した。

SIDE:OUT

SIDE:恭也

俺は、俺達はその光景を呆然と見ていた。

『ラ・イ・ジ・ン・グ』

電子音が響き、イクサと呼ばれた仮面ライダーの姿は白から、青へその姿を変えると、どこから青いフェッスルを取り出し、それをベルトに装着した。そして銃へと変形させた武器を構え、躊躇無くその引鉄を引く。銃から放たれるエネルギー弾による攻撃が、ほぼゼロ距離で炸裂、オプションの体を通った。

一方・・・

『ウェイクアップ』

電子音の後に笛の音色のような音が響き、上空に見た事のない紋章が現われ、サガと呼ばれた仮面ライダーから放たれた鞭のようなものがオプシオンを貫き吊るし次の瞬間、爆発しオプシオンはその機能を停止した。そして役目を終えた彼らは姿を消した。

あまりの事態に呆然とする俺達だったがさすがの悲鳴のような声で我に返った。

すずか

「なんで、どうして!？」

急いで飛翔が倒れている場所に向かいその光景を見た。

傷口から血を流し倒れこんでいる飛翔とその側で泣きながら飛翔の名前を呼ぶすずかの姿を・・・

S I D E : O U T

S I D E : ? ? ?

誰？

あなたは、わたしの声が聞こえるの？

この声が聞こえるなら・・・お願い、・・・と・・・を・・・わたしの・・・を・・・助けて・・・

S I D E : O U T

SIDE：飛翔

飛翔

「なんだよ、今の声は？それに此処はどこだ？」

頭痛を感じ、目を開けてみると目にしたのは知らない天井だった。軋む体を起こし周りを見てみると、どうやらベットの置かれた部屋で寝ていたらしい。

飛翔

「確か俺は・・・そうだ、すずかを庇って・・・」

一体ここはどこなのだろう？あれからすずかや恭也さん達は怎么样了？考えているとドアが開く音が聞こえそちらの方へ向くと。

すずか

「あっ！」

こっちを見て驚いていた。

すずか

「お姉ちゃん、恭也さん、ノエル、ファリン、起きたよ。」

そう叫んだ瞬間、廊下から足音が近づいて来た。

恭也

「起きたか、この大馬鹿野郎。」

最初に部屋に入り込んだ恭也さんからいきなり頭に拳骨をくらった。

飛翔

「何、するんですか!！」

ノエル・ファリン

「「すずかお嬢様がどれだけ心配したと思っっているんですか?」「

怒られてしまった。

すずか

「よかった……よかったよ……」

泣きながらそう言われると反論出来なかった。

その後で、忍さんからあれからどうなったかを教えてもらった。

まず親戚の馬鹿……名前は忘れたが今回の一件が決め手となり忍さんが親しい親戚に頼み相当長く表には出られないようになったらしい。いい気味だ。

次に俺が戦った先生だが、これは忍さんもどうなったのか分からないらしいが大体の事情は教えてもらった。あの先生と呼ばれていた男は『退魔師』と呼ばれる存在でその筋では有名だったのだが自身の持つ力に溺れて一般人を相手に力を使った事が原因でほかの『退魔師』達、そして自身の生家から追放されていたらしい。

忍

「まあ、こんな感じね。」

飛翔

「そつですか……」

忍

「ちなみに、あれから3日も経っているのよ。」

飛翔

「そうなんですか!！」

寝すぎじゃないか? そう思ったが忍さんの次の言葉で忘れる事になった。

忍

「それでね、実はね……」

飛翔

「実はね?」

忍

「あの時、飛翔君の出血が酷くてね……すずかの血を輸血したの。」

「

申し訳なさそうな表情でそう言った。

飛翔

「すずかは大丈夫なんですか?」

その言葉に驚いたのか忍さんが逆に聞き返してきた。

忍

「すずかは大丈夫。こっちは、あなたの心配をしているの。」

俺の心配?

飛翔

「俺は大丈夫ですよ。」

忍

「そっか、でも何かあったらすぐに教えてね。」

飛翔

「分かりました。」

こうして月村邸襲撃事件は幕を下ろした。

だが、ここで謎が残った。大抵の場合、訪れた世界では「果たすべき役割」を終えれば次の世界に移動できた。けれど、今は違う。移動ができない。つまり、俺にはまだ「果たすべき役割」がある事になる。

それに寝ているときに聞こえたあの声は一体なんだったのか？

考えなくてはいけない事が多すぎるなと思いつながら窓の外を見る。

けれど今は……

とりあえず今は、のんびりと休みたかった。

第二部に続く・・・

最終話：「闘いが終わって・・・」（後書き）

忍

第一部完。長かったね。

恭也

俺が『奥義乃極』を使えたのは何故だ？第二部ではコンサート襲撃事件を入れる予定なんだろう？

飛翔

その理由は今のところ内緒です。分かっているのは恭也さんが仮面ライダーになることだけです。

忍・恭也

マジ！？

飛翔

マジです。後、原作キャラで設定がかなり変わっているキャラがい
ます。

すずか

誰の設定が変わるの？

飛翔

秘密です。詳しく知りたかったら・・・

すずか

第二部を見よう。

忍
ところで、アレは誰だったの？

すずか・飛翔
アレ？

恭也
ああ。SIDE：？？のところだな。それは、俺も気になっていた。

飛翔
第二部の最後の最後に出てきますよ・・・たぶん・・・

すずか
たぶん！？その人の扱いがひどいよ。

飛翔
大丈夫・・・のはずだ・・・

すずか
それでは、第二部でまた会いましょう。

アンケート

アンケート

こんばんは、海人です。

実は、この作品の続きを思いつけず……どうしようか悩んでいます。そこで皆さんの意見を聞きたくコレを書きました。

今のところ自分の考えは……

- 1、 今までのを残しておく。
- 2、 無印はまた別の機会に書くことにしてすでに書いている話の改定とタイトルの変更をやってみる。

以上の2つです。

1の場合だと更新が何時になるか分からず・・・2だと元があるだけに楽に書ける気がします。

報告

どうも、海人です。今回はこの『魔法少女リリカルなのは Striker's Sweet Songs Forever prologue?』をどうするかを決めたので報告しようと思います。

まず、無印編を消して『魔法少女リリカルなのは Striker's Sweet Songs Forever prologue?』を『すずかと飛翔の過去編』として完結させます。無印編は別の作品としてある程度まとまったらやってみようと思います。なので無印編は削除します。

自分の都合でこの様な事になり申し訳ありません。

最後に、『すずかと飛翔の過去編』のほかに『アリシアと飛翔の過

去編』と『アリサと飛翔の過去編』も考えていたんですがそっちは『魔法少女リリカルなのは StrikerS』Sweet Songs Forever』で書けたらいいなと思っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2960k/>

魔法少女リリカルなのは StrikerS ~ Sweet Songs Forever ~ prologue?

2010年12月10日13時00分発行